

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

(群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○平成24年度第1回

テーマ：「図書館資料の修理・保存 (Part II)」

日時：平成24年9月11日(火) 13時30分～16時30分

場所：高崎健康福祉大学 2号館 213 講義室、図書館

参加者：91名(大学図書館30名、公立図書館49名、高校図書館12名)

講演：「本は長いともだち：本をなおす・本を残す・本を伝える」

兵庫ナカバヤシ(株) 小谷 英輔氏、西坂 健氏

【概要】1923年(大正12年)大阪で製本業を生業とする中林製本所として創業、2013年に創業90周年を迎えるナカバヤシ(株)。図書館ならば、館種を問わず、これまでに、日常業務として、幾度となく雑誌の合冊製本を発注したことがあるのではないのでしょうか。今回の研究会は、テーマを「Part II」としましたが、これは、2008年3月に国立国会図書館書誌部資料保存課から2名の講師を迎え、群馬県立女子大学で60名の参加を得て実施され好評であった研究会の第2弾として企画された研究会であることを意味します。今回は講師として、全国の教育機関、学術機関等からの製本依頼を一手に引き受け、日産3,000冊のまさに「工場」として機能している兵庫ナカバヤシ(株)から2名の修理製本のプロ(職人)に実際の演習指導を中心に講演していただきました。

第1部の講義では、プロジェクターでスクリーンに投影されたレジュメを基に修復の4原則(原型保存、安全性、可逆性、記録)、製本の綴じの種類、紙の「目」、修理・保存の禁じ手(粘着テープ、ステープラー、ゼムクリップなど)等について説明があり、「基本は閲覧(利用)だが資料を後世に残すこと(保存)の大切さ」も繰り返し強調されていました。

第2部の演習は、参加人数も多いこともあり(実技指導は20人以内が最適との指摘あり)、事前の打ち合わせでは、演習の進め方についても度々変更され、最終的には2人1組で表紙の剥がれた文庫本の本体を糸で綴じ直し表紙を糊付けする作業を行なっていただきました。



(会場：2号館)



(講義風景)



(演習風景)



参加者の意見等

「大変参考になった」「こういう機会はなかなかないので大変興味深かった」「実際の修理の手元を見せていただけて参考になった」等の意見の他に、「もっと実習の時間がほしかった」といった感想も多々あり、参加人数も、講師の言う、20人以内の最適人数をはるかに超え、また、絞め機、電動ドリル、糊・刷毛も1、2組しかなく、行列ができる状況も出来ました。開催回数も年2回と限られていることもあるが、参加人数をせめて40人までに制限する選択肢もあったのでは、と悔やまれる研究会でした。